

# 「鬼怒川上流ダム群水源地域ビジョン」が策定されました

くわしくは 地域振興課 地域振興係 ☎21-5147

市には、鬼怒川上流にある五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダムの4つのダムをはじめ、多くのダムがあります。ダムは水資源の確保や発電といった本来の役割に加え、防災や周辺地域の活性化といった効果も併せ持つ貴重な地域資源です。

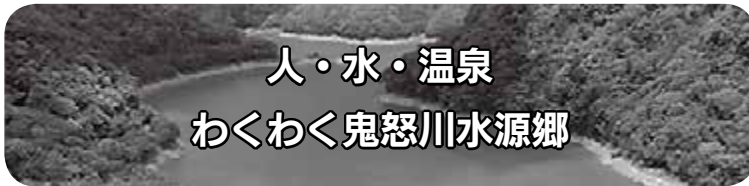
今回、市や国土交通省、栃木県、地元自治会、団体などが連携し、4つのダムがそれぞれの特性を活かしながら、水源地域の活性化を図ることを目的に「鬼怒川上流ダム群水源地域ビジョン」を策定しました。

## 水源地域ビジョンとは？

「水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の住民、自治体、ダム管理者が協働で策定主体となり、水源地域の自立的・持続的な活性化を目的に策定した行動計画です。三者が協働で水源地域ビジョンを策定し、事業推進を連携して実施し、水源地域が一体となって取り組むことにより、水源地域の魅力を伝えます。

## ビジョンの将来像

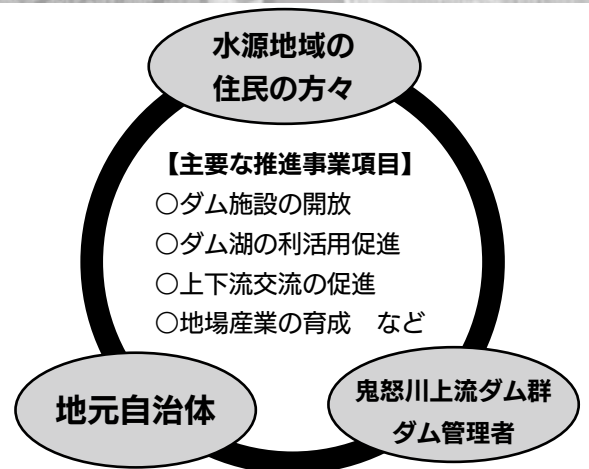
鬼怒川上流ダム群に関わる水源地域全体の将来像を次のように定め、この達成に向けて、住民・国・自治体・関係機関・民間が協働し、活性化に向けた取り組みを進めます。



人・水・温泉

わくわく鬼怒川水源郷

関東平野をうるおす鬼怒川の源流、水のふるさと 脈々と湧き出る水や温泉のように、個性あふれる魅力的な人々が主人公となり地域資源の活かし方を再発見 流域圏での交流を進めてつながりをつむぎ 新たな人・もの・ことの流れを生み出す わくわくと楽しくなるような、笑顔あふれる水源地域を目指します。



「水源地域ビジョン」のイメージ図

## 3つの基本方針

### 基本方針1…地域の「宝を磨いて」活かす

⇒鬼怒川水源地域にある自然や歴史、文化、4つのダムをはじめとする地域の豊かな資源を磨き上げ、活用します。

### 基本方針2…流域の「つながりを深める」

⇒既存の組織や仕組みを活用するとともに、ソーシャルネットワーク(※1)やテーマコミュニティ(※2)などの新たなつながりも交えて、人のつながりをつむぎ、上下流交流を促進します。

### 基本方針3…みなが愛する「きぬがわブランド」を育む

⇒地域の求心力となる愛着と誇りを高めるとともに、地域外へ向かって積極的に情報発信し、誰もが魅力を感じることができるよう「きぬがわブランド」を育みます。

※1…インターネットを活用した社会的つながり

※2…特定の地域課題をテーマとして集った集団

## 具体的な取り組み(左ページに主なものを紹介しています)

各地区ならではの特徴があり、資源もさまざまなことから、「地域全体」と「川治」「三依」「川俣」「日向」「湯西川・西川」の5つの地区ごとに水源地域の取り組み(アクションプラン)を進めていきます。

## 地域全体

五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダムの4つのダムが連携し、鬼怒川上流ダム群をブランド化する。

- ダムカードの配布とダム巡りスタンプラリーの実施
- ダム解説の多言語化
- 森と湖に親しむ旬間における上下流交流 など



ダム巡りスタンプラリー

## 湯西川・西川地区

既存の水陸両用バスツアーを支援するとともに、漁労活動の活発化を図り、湯西川ダム空間の活用を進める。

- 湯西川水の郷の利活用
- 湯西川ダムのライトアップによる夜間ツアー
- 湯西川湖・湯西川ダムでの水陸両用バスの運行 など



湯西川ダックツアー

## 三依地区

都心と直結する交通アクセス(鉄道)の優位性を活かし、下流域との交流を進め地域活性化を図る。

- 散策マップなどの情報発信
- 台東区との交流



三依の散策マップ



川俣ダムライトアップ

## 川俣地区

川俣ダム周辺の青葉や紅葉などの自然を活かしたダム空間の活用を進め、地域の滞在時間を増やす工夫を行い、地域活性化を図る。

- 川俣湖水面利用ルールの策定と運用
- 川俣マップの作成
- 川俣ダム見学ツアー など



地域に眠る宝「稲ヶ沢」

## 日向地区

川治ダムの湖水面利用の安全性を確保し、漁労活動の活発化を進める。さらに、地域に眠る宝の情報を発信する。

- 八夕湖水面利用ルールの策定と運用
- 地域情報発信ツールの作成
- 釣り関連の支援 など



令和元年8月にオープンした川治温泉薬師の湯キャンプ場

## 川治地区

川治温泉街から歩いて行ける五十里ダム、川治ダムのダム空間を利用し、ダム見学ツアーを軸とした地域活性化を図る。

- 五十里ダム、川治ダムライトアップツアー
- 川治ダム資料館のリニューアル
- キャンプ場の活用 など

今後は、「鬼怒川上流ダム群水源地域ビジョン推進協議会」および、その実行組織となる各「ダム部会」によって、水源地域ビジョンを推進していきます。

皆さんもぜひダムに足を運んで、ダムの「わくわく」を感じてください！